

平成28年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策
重点目標	具体的目標(評価項目)	目標達成のための方策	評価指標	評価	取組状況と課題	評価	意見	
人とつながって生きる力を向上させる	1 互いの人権を尊重し、互いに高め合う態度を育成する。(心の通った切磋琢磨)	人権・同和教育に関するLHRや講演会の充実を図る。教職員研修により教職員の人権意識を高める。	生徒の感想文。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。いじめアンケート・アンケートQUの分析。平素の生徒の観察。	B	LHRや講演会は生徒の人権意識を高める大切な機会であるが、教職員自身の研修にもなるように実施体制を整えていく必要がある。	B	・生徒同士や教員と生徒とのコミュニケーションがとれており、雰囲気の良い学校であるというイメージがある。 ・部活動が盛んで、各方面で活躍しており、成果もあげているので、学校の大きな魅力であると感ずる。 ・障害者差別解消法が施行され、必要とする生徒にますます支援体制を整える必要が生まれている。合理的配慮を要望する生徒への適切な対応が必要になる。	人権・同和教育に関するLHRや講演会にできる限り多くの教職員がかかわり、学年担当のリーダーシップが発揮できるように実施体制を整えていく。
	2 部活動、生徒会活動など課外活動への積極的参加を促す。	部活動紹介で入部を呼びかけ、活動の状況や成果を生徒に目に見える形で発信する。また、生徒会活動や委員会活動の機会を増やしていく。	部活動加入状況。HPや学校だよりでの情報発信の状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	A	部活動や生徒会活動に充実感を感じている生徒は多い。部活動の活性化は本校の魅力の一つであるので、今後とも力を入れていく。	A		主権者教育の一環として生徒会委員会活動の主体的な活動をさらに支援していく。また、部活動に打ち込む生徒の姿を評価し、活動の魅力を発信し続けていく。
	3 声掛けの実施と、教育相談、特別支援体制の充実を図る。	生徒への声掛けにより信頼関係を構築する。また、気づきシートや個別の指導計画を活用し、支援や相談を有効に行う。	対象生徒の状況。スクールカウンセラーの活用状況。気づきシートや支援計画・指導計画の作成・活用状況。	A	気づきシートの導入や職員全体での情報共有に力を入れ、スクールカウンセラーや関係諸機関とも連携して組織的に生徒に対応した。取り組みを継続していく。	A		職員全体での情報共有を継続し、関係諸機関と連携して組織的に生徒を支援していく。各学年にも生徒支援担当を配置し、支援を行き届かせる。
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる	4 学びのモチベーションを高め、自ら学ぶ態度を育成し、主体的学習者を育成する。	授業の公開や研修を通じて授業改善に努め、アクティブラーニング型授業を展開する。また、ETCの効果的な実施や課題の質や量を検討する。	授業アンケートの結果。学習時間調査の結果。学習成績、実力テスト成績。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	B	生徒の家庭学習時間の増加を促し、主体的で深い学びを引き出すための授業改善を継続していく。また、ICT機器の整備や土曜講座の質的向上をはかっていく。	B	・アクティブラーニング型授業についての評価指標を設定しておく必要がある。 ・家庭学習時間だけでなく、学習のなかみ(内容や質)の指導も重要である。 ・新しい学力観にもとづく評価が行われているか、試験問題の質や形式の検証も必要である。	主体的、対話的で深い学びをひきだす授業づくりを工夫する。また、課題やETC、土曜講座の内容を検討し、生徒が意欲的に取り組むことができるような方法を検討する。
	5 東高版キャリア教育の充実を図る。	地域、企業、大学等と連携し、3年間を見通したキャリア教育を準備する。生徒が主体的にライフデザインを考えるような仕掛けを工夫する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	C	2回目の研修旅行も滞りなく実施できたが、生徒がキャリア教育の個々の成果を実感できるような工夫や、3年間を通したキャリア発達を維持できる体系をつくる必要がある。	B		既存の事業を精選し、高校3年間を見通したキャリア教育の体系を整備していく。研修旅行の内容についても検討を加えていく。
	6 授業力、教師力向上に向けた取組(研修)を推進する。	公開授業などの校内研修を充実させるとともに、校外の研修や研究会に積極的に参加する。また中学校からの学びをつなぐために連絡を密にとる。	公開授業・授業研究の実施・参観状況。授業アンケートの結果。校外研修、研究会等への参加状況。	B	教員は県の事業費を活用し、積極的に校外研修に参加できた。ただし、各教科の公開授業や授業研究に他教科教員の参観を増やしていく必要がある。	B	・研修旅行はとても意義あるものであるが、外部評価してもらいことも検証材料となる。 ・ワークライフバランスと収入安定を意識する社会人が多くなったが、働くことの意味自体を考える重要性を再認識させたい。	授業参観や授業研究を活発にして、授業改善への取り組みを継続していく。他教科授業の参観や校外研修、研究会等への積極的な参加を促進する。
	7 面談や各種検討会を機能させ、学力の向上やキャリア発達を促す。	生徒面談、保護者面談を定期的に行い、進路検討会を活用して一人ひとりの学力向上や進路目標実現を支援し、「自立への道程」を考えさせる。	生徒・保護者面談の実施状況。進路検討会等への参加状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	A	生徒面談や保護者面談、学年通信等を通じて、進路情報の提供ができた。進路検討会への参加促進により、3年間を見通した教員の指導力育成をはかっていく。	A	・夢に向かうための具体的なステージを生徒に明示したい。	生徒面談や保護者面談、学年PTA等による生徒・保護者との個別相談の機会を確保していく。進路検討会を教員研修の場ととらえ、3年間を見通した教員の指導力育成をはかる。
地域社会の未来と関わる力を育成する	8 地域社会へ明るい話題を提供する。	学校だよりやホームページを通して、学校行事や部活動の状況を積極的に発信する。また、保護者との連携を密にし、PTA活動を促進する。	学校だよりの発刊状況。ホームページの更新状況や閲覧状況。保護者アンケートの評価。	A	ホームページをリニューアルし、学校だより等により情報発信に努めた。学校の魅力が保護者や地域に伝わるよう、今後も発信力を高めていく。	A	・ホームページや学校だよりは学校の様子がよくわかり、魅力を発信している。 ・FBやLINEなどのSNSの活用によって情報を発信したり、緊急時の伝達を広げることも考えられる。 ・地元で起業している先輩方もいるので、幅広い視点で社会をみる体験をさせたい。	リニューアルしたホームページを多くの人に見てもらえるように宣伝していく。また、学校便り(EASTNEWS)の発行を継続し、学校の様子を小中学校・地域に発信し続ける。
	9 地域社会への理解と貢献意欲の向上を図る。	幼小中大との交流や協働、企業や社会人との連携など地域資源を生かした体験活動・ボランティア活動を推進する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。地域の方々への声。	B	幼小中大との交流や地元企業への訪問、社会人講話等を通じて地域社会の理解を深める取組は推進できた。生徒が取組成果を整理できる工夫が必要である。	B	・車での送迎が多く、保護者も「自立への道程」を意識した生徒への支援を考えるように働きかける必要がある。	キャリア教育としての地域交流事業については整理し、生徒が取組の成果をポートフォリオできるような工夫を検討していく。部活動やボランティアでの地域社会との交流は積極的に進めていく。
	10 生徒の意識の中に「地域化」を図る。	挨拶や校歌斉唱、清掃活動、学校設備や資源の有効利用を通じて、地域や学校の一員であるという意識を育てる。	生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。地域の方々への声。	B	挨拶や自転車通学のマナーはよい。ごみの分別や節電、家庭での基本的な生活習慣確立に課題がある。保護者とも協力して地域の一員としての意識を育てていく。	B		挨拶指導や交通安全教育は継続していく。基本的な生活習慣の確立や車での送迎など、家庭の理解を得て保護者からも協力をいただけるように働きかけていく。

※【評価】 A……大変良い B……良い C……あまり良くない D……良くない